

令和元年度老人保健健康増進等事業

リハビリテーションを行う通所事業所における栄養管理のあり方に関する
調査研究事業

一般社団法人日本健康・栄養システム学会

本研究事業は、平成30年度の本研究事業の結果を踏まえて介入研究によって、サービス計画と強固な連携体制のもとで、通所リハではリハビリテーションマネジメント（リハビリテーションマネジメント加算）、通所介護では個別機能訓練加算（個別機能訓練加算）の提供を前提に、在宅訪問や経口維持の活動を含めた「総合的栄養ケア・マネジメント（以下、総合的NCMという）」の体制や取り組みを作成後、導入、展開した。当該「総合的NCM」の実施可能性や効果は、平成30年度当該事業の個別調査対象者をヒストリカルコントロールに置いた多施設共同介入研究デザインによって検証するものとした。さらに、通所事業所の現場での定性的情報収集や課題、要望や留意点を収集するため、訪問インタビュー調査を通じて通所サービスにおける新たな栄養改善モデルの構築に資することを目的とした。

平成30年度当該研究事業の協力事業所から協力同意が得られた通所リハ23事業所168名、通所介護9事業所67名を総合的NCMによる介入を受けた「①介入群」とし、介入期間は6か月間とした。総合的NCMが行われていなかった平成30年度の利用者個別調査データ（通所リハ23事業所1,410名、通所介護23事業所780名）を比較対象（以下「②非介入群（マッチングなし）」という。）とした。

総合的NCMは、本研究事業によって新たに作成された手順書及びNCM展開票（アセスメントシート）によって実施され、低栄養及び摂食嚥下障害の問題のある者のスクリーニング、アセスメント（栄養ケアプロセスの活用）、総合的な判定（栄養診断）、栄養ケア計画試案の作成、会議（リハビリテーションマネジメント会議、サービス担当者会議等）による協議と本人・家族への説明と同意を経て栄養ケア計画を決定・実施し、さらに、モニタリング（3か月後）、6か月後に評価を実施するものとした。さらに、総合的NCMにおいては必要に応じて在宅訪問や多職種によるミールラウンドを導入した経口維持の取り組みができものとした。

介入群と非介入群のベースライン特性（サービス開始前の状態）の比較を交絡の可能性を考慮し、傾向スコアマッチングによるベースライン特性の一致を③非介入群（マッチングあり）」という。）によって試みた。なお、6か月後の評価は日本健康・栄養システム学会に引き継がれたので、今後、6か月後の効果について、さらに検討し、平成3年度の介護報酬改定に寄与するものとする。

一方、訪問インタビュー調査は、介入数の多かった通所介護3か所、通所リハ3箇所の研究担当した施設常勤管理栄養士及び事業所管理者を対象に訪問インタビュー調査が行われ、通所事業所における「総合的NCM」の実施現場からの当該体制や取り組みに対しての収集された定性的情報収や課題、要望や留意点は、総合的NCMの今後の構築や取り組みに対して活用できるものであった。なお、両研究計画は神奈川県立保健福祉大学研究倫理審査委員会から承認を得て実施された（保大第17-53, 保大第17-25）。